

チェーホフ『かもめ』(神西清・訳)

ソーリン家の領地内の廃園の一部。広い並木道が、観客席から庭の奥のほうへ走って、湖に通じているのだが、家庭劇のため急設された仮舞台にふさがれて、湖はまったく見えない。仮舞台の左右に灌木の茂み。椅子が数脚、小テーブルが一つ。

日がいま沈んだばかり。幕のおりている仮舞台の上には、ヤーコフほか下男たちがいて、咳ばらいや槌音が聞える。散歩がえりのマーシャとメドヴェージェンコ、左手から登場。

チェーホフ『桜の園』(神西清・訳)

いまだに子供部屋と呼ばれている部屋。ドアの一つはアーニヤの部屋へ通じる。夜明け、ほどなく日の昇る時刻。もう五月で、桜の花が咲いているが、庭は寒い。明けがたの冷気である。部屋の窓はみなしまっている。

ドゥニャーシャが蠟燭をもち、ロパーヒンが本を手に登場。

チェーホフ『ワーニャ伯父さん』(神西清・訳)

庭。ベランダのついた家の一部が見える。並木道のポプラの老樹の下に、テーブルがあつて、お茶の支度ができている。ベンチ、椅子、それぞれ数脚。ベンチの一つに、ギターが載っている。テーブルのじきそばに、ブランコがさがっている。午後二時すぎ。曇り日。

マリーナ(ぶよぶよした、動きの少ない老婆)が、サモワールの前に坐つて靴下を編んでいる。アーストロフが、そばを歩き回っている。

チェーホフ『三人姉妹』(神西清・訳)

プローゾロフの家。円柱のならんだ客間。柱の向うに大広間が見える。ま昼。戸外は日ざかりで朗らかである。広間では朝食のテーブルをととのえている。

オーリガが、女学校女教師の青い制服をきて、立ちどまつたり歩いたりしながら、生徒のノートを直しつづけている。マーシャは黒い服をつけ、帽子を膝にのせて坐り、小型な本を読んでいる。イリーナは白い服を着て、立って考えこんでいる。